

平成22年度飯山市水防訓練実施

飯山市水防体制の強化のため、約400名が参加



北信建設事務所職員により、水防各工法の指導が行われた。



公共施設などにも設置が進むAED（自動体外式除細動器）を使用した救護訓練



千曲川河川事務所によるクレーンを使った「大型ブロック投入訓練」

災害時の避難場所が変更になります

市内中学校統合等に伴い災害時の避難場所が変更となります。出水期や台風シーズンを前に、今回変更とならない地域の皆さんも避難場所の確認をお願いします。

避難場所については、昨年配布した防災ポスター「飯山市にも災害は突然やってくる」や飯山市ホームページをご覧ください。なお、防災ポスターは今回の変更前のものですので、次のとおり読み替えをお願いします。

【避難場所・洪水時避難施設】

変更前施設名称	変更後施設名称	変更内容
第一中学校	城南中学校	名称変更
第二中学校体育館	飯山北高体育館	避難場所の変更（対象：北町区）
第三中学校	城北中学校	避難場所の変更
第三中学校体育館	城北中学校体育館	避難場所の変更
木島平村南部小学校	木島平小学校 (旧中部小学校)	避難所の所在地変更 (対象：安田・上新田・吉・其綿の洪水時避難施設)

【お問い合わせ】庶務課 消防防災係 ☎ 62-3111（内線 339）

平成22年度総会を開催

北陸新幹線飯山駅周辺

まちづくり市民協議会

5月31日、北陸新幹線飯山駅周辺まちづくり市民協議会（会長 丸山茂彦飯山市区長会協議会長）の総会が市公民館で開催され、提出された議案すべてが承認されました。

本協議会は、新幹線誘致運動を展開した飯山市北陸新幹線建設受入促進市民協議会（昭和54年発足、平成17年現名称に改称）を前身とし、建設促進運動および

市民の皆様への広報活動等を行っており、昨年まで各世帯から協力金（年200円／世帯）をいただき、そのうち100万円を目標に新幹線飯山駅の開業に備えて積み立ててきました。昨年度末の総額は1千3百万円となっており、総会では、このうち1千万円を開業関連事業費として使途を検討し始め、残りの300万円を今年度以降の協議会運営のための事業推進費とすることが承認されました（今年度より協力金はいた

きません）。本協議会では、平成26年度末の新幹線飯山駅開業に向け、駅周辺整備事業の進捗よく状況や、まちづくりの情報をお伝えし、市民の皆さんにお伝えするとともに、駅周辺整備事業についても側面的に支援していく考えです。

お問い合わせ

都市計画課 計画係

☎ 3111 内線 245

収入支出決算および予算

収入			(単位：円)	
	H 21 決算	H 22 予算		
繰越金	431,313	274,599		
繰入金	0	500,000		
協力金	1,354,001	0		
雑収入	35,356	25,401		
合 計	1,820,670	800,000		

支出			(単位：円)	
	H 21 決算	H 22 予算		
会議費	23,528	30,000		
事業費	513,343	710,000		
旅 費	0	30,000		
事務費	9,200	20,000		
積立費	1,000,000	0		
予備費	0	10,000		
合 計	1,546,071	800,000		

■積立金の状況		(単位：円)
H 21 年度末残高	13,000,000	

市長の

悠久のふるさとづくり ②

飯山市長 石田正人



気候の変調により大変心配された田植え作業も、機械化農業のおかげか順調に進み、青田に変わっていきます。しかし、科学が進歩したとはいえ、気象は変える事ができません。人ができる事はしっかりと対処しなければ取り返しのつかない問題となり、原風景の素晴らしい「悠久のふるさと」も失われてしまいます。

日本の主食「お米」。命を育む食糧との位置づけは今も変わらないはずですが、田んぼの耕起が始まり水田に変わる市内を巡ると、昨年まで田植えされていた田が、草田に変わっている所が見受けられます。飯山の水田も40%という減反政策で、先祖が大変苦労して引き継ぎ残してくれた田んぼが消えていっています。先人がこの現状を見たらどれほど驚き悲しむ事であるかと思えます。このような時期に昔の暮らしに思いをはせる事も大切だと思います。

「田んぼの傍らの子どもに気を配りながら、皆が手作業で土を耕し、1ヶ月以上もかけてやっと田植えができる」「病人や老人のいる家には皆で手伝いに行く」そんな深い絆で結ばれた助け合いや協同で作業する姿が、田んぼが消えるのと同じように無くなってきました。原風景の残るふるさととは、自然景観だけではなく、人の営みが最も重要であります。日本民族には食文化を中心に築いた歴史があり、それを担った人と人の心の絆があつてこそ、原風景の残る「悠久のふるさと」と言われると思います。

市民の皆さんのご協力で開館した「高橋まゆみ人形館」にもその状況をたたえている創作人形の姿があります。1年間で達成する入館者数の計画を、わずか1ヶ月で達成した事からも、来館者が昔懐かしい農村の姿から「なにか」を感じていただいているのだと思っています。身近にある「悠久のふるさと」から、先人の思いを育てていきたいものです。

総会には、協議会を構成する、区長会協議会、関係区の代表、経済団体などが出席した。